

# 女性スポーツ指導者が女子選手にもたらす影響

市川 美香 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員：鳥羽 賢二

キーワード：女性スポーツ指導者,女子選手,母性

## 1. はじめに

近年、スポーツ場面で活躍するシーンに、以前は男性ばかりが目立っていたが、メディアなどを通し女子選手の活躍を目にする機会が増えてきた傾向にある(荒木ら2010)。しかしそれらを支えるスポーツ指導者の男女比は、8:2と男性指導者数の方が多く、女性指導者数は圧倒的に少ない状況がある(JOC 2004)。

そこで本研究は、女性スポーツ指導者が同性である女子選手にコーチングをすることで、どのような効用があるのかを明らかにし、女性指導者の今後の発展性を試案することを目的とする。

## 2. 研究方法

- ①文献調査：スポーツ指導者関連、母性・父性に関することなどの文献調査。
- ②アンケート調査：本学の運動部活動に所属している女子3クラブ計64名(回収率87%)を対象とし、その中で8名に半構造化法によるインタビューを実施。

## 3. 調査結果と考察

指導者にするのであれば、男性が良いという意見がありながら、女性指導者に対して、今後スポーツ現場にいてほしいという意見が多く出現した。女性指導者は、女性特有の母性的なものが評価され、女子選手からコミュニケーションが取りやすいことや、感情的・生理的な面の悩みは同性にしかできないなどの、女性指導者を必要とする意見があった。また、男性指導者は、指導力の高さやネットワークの広さが高く評価されていた。加えて、「女性指導者を見るのが少ない」というような、これまでのスポーツ界の慣習も深く関わっていた。

これらについて、表1に男・女指導者の特徴的な差異をまとめている。

表1 男・女指導者の差異 (筆者作成)

| 女性              | 男性              |
|-----------------|-----------------|
| コミュニケーションが取りやすい | コミュニケーションが取りづらい |
| ①ネットワークが狭い      | ネットワークが広い       |
| 選手との距離感が近い      | 選手との距離感が遠い      |
| ②指導力が低いイメージ     | 指導力が高いイメージ      |

女性指導者に不足している要素は①ネットワークが狭い、②指導力が低いイメージの2つが浮かび上がった。

## 4. まとめ

女性が指導者・リーダーとして活躍するためには、男性主体のスポーツ界の「慣習」をなくし、はやい段階から女子だけの集団でリーダーシップ経験を積むことが重要となる(図1)。また、女性に求められる「幅広いネットワーク」や「高い指導力」を自助努力によって改善していくことで、女性指導者は指導者としての地位を確立されていくといえる。

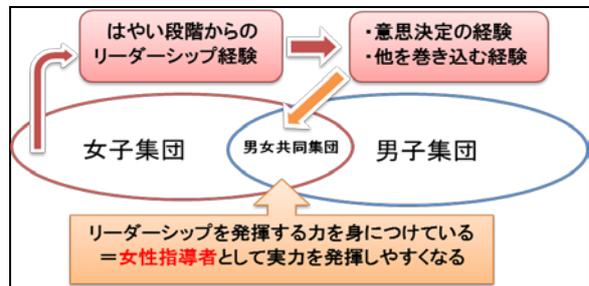


図1 女性指導者として活躍するための有効手段(筆者作成)

## 引用・参考文献

荒木 香織 小谷 郁 (2010)「トップアスリートに関わる女性アスリート・コーチ・理事の経験を探る」SSF スポーツ政策研究所 第1巻 1号, 14-17 他